

# Marshall

## こだわりのハンドワイヤードが、 ヴィンテージならではの音と 高レスポンスを生む!!

マーシャルが、2014年にリリースした新製品のなかでも注目は、ヴィンテージ・モデルの復刻だろう。ここで試奏している4機種は、どれもマーシャル・マニアなら感動のモデルである。こだわりのハンドワイヤードで製作されているので、もちろん音も感動的な復刻だ!



音質重視

プロ指向

マニアック

ヴィンテージ

**試奏!** マーシャルの持つ伝統のサウンドをより忠実に、よりオリジナルのトーンの追求をテーマに製作されるハンドワイヤード・シリーズ。今回試奏の各モデルすべてに、そのこだわりのトーンと弾き心地をハッキリと感じさせてくれている。

2245THWは、マーシャル・アンプの創成期である1962年に登場し、その後、プルスプレーカーへと続く銘機JTM-45にトレモロ回路を内蔵したモデルだ。出力は30wで、ヴィンテージ・マーシャル特有でもある4インプット仕様となっている。右側のインプットに接続した場合のみに掛かるトレモロは、スピードとインテンシティ(深さ)コントロールでエディットが可能。今回の試奏は、キャビネットもヴィンテージ・タイプの1960AHWを使用したのだが、ルックス的なマッチングもグッドで、音を出す前から期待感を膨らませてくれる。

さて、さっそく音を出してみると、EQやヴォリュームの設定に関わらず、弾いた瞬間にまず感じるのがピッキングに対しての反応のよさだ。とにかく立ち上がりが速く、ピッキングに対するニュアンス・フォローもストレスなく自然に反映してくれる。トーンは、マーシャルらしい中高域を特徴的にキラビヤかさを持ちながら、イタくはないブライトな高域が加わってくれている。真空管にはKT-66管が使用されていることもあり、低いヴォリューム設定時やギター側のヴォリュームによってはパワフルかつクリスタル感を残したブライトで上質なクリーン・サウンドも得ることができた。トレブル、ミドル各コントロールの効きは緩やかで、音作りもしやすい。プレゼンスの効きがハッキリしているのは、このモデルの特徴だろうか。トレモロは、ヴィンテージ・アンプのトレモロらしい、緩やかな揺れを作り出してくる。

CHI(左側のインプット)では、ヴォリュームが3~4ぐらいあたりからクラッチ感が増していき、5をすぎると腰のしっかりとした艶やかな音色を持つ極上のオーバードライブへとパワー

アップしてくる。ドライブ感を持ちながらも、ギター側のコントロールに対して追従してくるクラッチ・サウンドは、さすがで、ハンドワイヤードならではの感じだ。

続いては、1958Xについてみよう。このモデルは、ヴィンテージ・マーシャルである1974Xを元に、セレクション・ブルーバック10インチ・スピーカーをマウントさせたヴァリエーション・モデルと言える。1974Xの大きな特徴でもあるヴォリュームとトーン・コントロール、そしてトレモロというシンプルな仕様と、そのファットでクリーミーなオーバードライブ・サウンドをそのままに、10インチ・スピーカーを採用することによってシャープなトーンとオープンバックらしい箱鳴りがポイントとなっている。コントロール・パネルの右側からCHIインプットがノーマル・チャンネル(トレモロなし)、そのとなりのインプットがトレモロが使えるチャンネルとなっている。どちらのチャンネルも、ヴォリュームは2をすぎたあたりからクラッチ~中高域の豊かなオーバードライブへと変化していき、12時位置以降からはドライブ感の密度が増していく感じだ。シンプルにTONEとして用意されているトーン・コントロールは、時計回りに上げていくに従ってトレブリーに変化し、ローカット寄りのニュアンスで、切れのいいトーンに変化してくれる。他のモデルのように4トーン・タイプではないものの、ギターのレンジに対してバランスよく変化してくれるので、シンプルで使いやすい。適度な箱鳴りと広がりもあるので、スモール・サイズのクラブ・ギグなどには使いやすいだろう。

そして、グリーンバック12インチ・スピーカーを2基マウントしたモデルが1973Xだ。1973Xオリジナルは、1966年から68年の間に発売されたコンボ。こちらは出力18wで、スピーカー以外のアンプ部の仕様、パーツは1958Xと同じだが、スピーカーが大きくくなっているぶん1958Xに比べると本体サイズも横幅が約10cmほど大きくなっている。さて、サウンドのほうだ



↑2245THWは、プリ管にECC83、パワー管にKT66とECC83という真空管を採用



↑4インプット仕様なので、このようにリンクという裏ワザを使うことも可能だ

### マーシャル 2245THW(ヘッド)/1960AHW& 1960BHW(キャビネット) ※キャビネットは、1台のみ接続可能です

¥450,000(ヘッド)+税/各¥215,000(キャビネット)+税

(仕様) ヘッド部→●出力:30w ●真空管:プリ管=ECC83×3、パワー管=ECC83×1+KT66×2 ●コントロール:プレゼンス、ベース、ミドル、トレブル、ヴォリューム1、ヴォリューム2、スピード、インテンシティ、トレモロ ●入出力端子:インプット、スピーカー・アウト ●外形寸法:695(幅)×305(高さ)×230(奥行き)mm ●重量:15.1kg  
キャビネット→●スピーカー:セレクション製(G12H-30)12インチ×4、16Ω、120w ●外形寸法:770(幅)×755(高さ)×365(奥行き)mm ●重量:36.4kg(A)、37kg(B)

maker's voice

### ヴィンテージの魅力を ハンドワイヤードで再現

HW(ハンドワイヤード)シリーズは、マーシャル社が1962年に創設されてから間もない60年代中盤に製造されていたモデルを復刻したものです。のちに60年代~70年代を代表する機種となったモデル1959の前身モデルである2245や、当時まだ19歳のエリック・クラプトンからのリクエストによって生まれた1962などなど、マニア垂涎のモデルです。そのサウンドは、まさに曇りのない無垢なトーンで、ギター・サウンドの概念を覆すといっても過言ではありません。ギター側のヴォリューム・コントロールにも非常に反応がよく、クリーン~歪みまで無段階で多彩なサウンドを演出することが可能です。



- 音質重視
- プロ指向
- シンプル
- ヴィンテージ

マーシャル  
**1958X** ¥350,000+税

〈仕様〉 ●出力: 18w ●真空管: プリ管=ECC83×2、パワー管=ECC83×1+EL84×2 ●コントロール: トーン、ボリューム×2、スピード、インテンシティ、トレモロ ●入出力端子: インプット2×2 ●スピーカー: セレクション製(G10G-15) 10インチ×2 ●外形寸法: 610(幅)×535(高さ)×230(奥行き) mm ●重量: 19.5kg



↑1958Xは、2チャンネルあるが、1EQと1ボリュームで音を作り出す

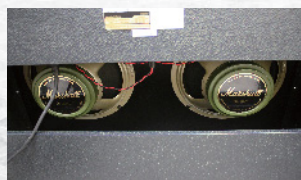
が、10インチと12インチというスピーカー・サイズの違いは当然サウンドに大きく反映されてくる。切れのいいトーンを持った1958Xに比べ、1973Xはミッド〜ロー・ミッド域がより豊かになり、ボリュームを上げた時のドライブサウンドでは中域のブースト感が前に出てくる。ボリュームを上げるに従って低域が締まり、アタックの効いたタイトなブースト・サウンドに変化してくる。豊かなミッド・レンジと抜けのよさを持ったモデルだ。

最後に試奏したのは、1965年に登場し、マーシャル・アンプの中でも伝説のコンボ・モデル“ブルースプレーカー”を再現した1962HWだ。65年当時、エリック・クラプトンによる革命的なサウンドもあり、その後のエレクトリック・ギター・シーンにオーバードライブ・サウンドを定着させるキッカケとなったアンプで、当時のトランスを製造していた会社からのトランス供給など、細部にわたりハンドワイヤードで忠実に再現している。グリーン・バック12インチ・スピーカーを2基マウントした出力30wコンボで、アンプ部の仕様は、2245THWと同様。CH1のハイにインプットし音量を上げると、低ボリュームから自然なクラッチが始まり、フル・アップではエネルギーでタイトなオーバードライブまで、どのボリューム位置でも輪郭のしっかりとした明快なトーンを作り出してくれる。ドライブ・サウンド時でも、ピッキングやフィンガリングの微妙なニュ



↑スピーカーは、セレクション製のブルーバック。手前に見えるのが真空管だ

アンス、音量、音色ともに完璧といってもいいくらいに素直に反応してくれる。レスポンスのよさ、コントロールしやすいクラッチ/オーバードライブなど、現在のオーバードライブ系エフェクターの指針となった、まさにレジェンダなアンプと言っても過言ではないだろう。



↑1962HWもグリーン・バックだが、こちらにはマーシャルの文字が!



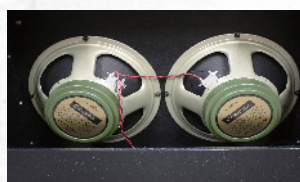
↑1962HWのコントロール類は、2245THWと共通している



- 音質重視
- プロ指向
- シンプル
- ヴィンテージ

マーシャル  
**1973X** ¥380,000+税

〈仕様〉 ●出力: 18w ●真空管: プリ管=ECC83×2、パワー管=ECC83×1+EL84×2 ●コントロール: トーン、ボリューム×2、スピード、インテンシティ、トレモロ ●入出力端子: インプット2×2 ●スピーカー: セレクション製(G12M-20) 12インチ×2 ●外形寸法: 710(幅)×540(高さ)×235(奥行き) mm ●重量: 23kg



↑1973Xのスピーカーは、同じセレクションでもグリーンバックを採用



↑1958X、1973Xともにコントロール関係は共通だ



- 高級指向
- プロ指向
- 音質重視
- ヴィンテージ

マーシャル  
**1962HW** ¥550,000+税

〈仕様〉 ●出力: 30w ●真空管: プリ管=ECC83×3、パワー管=ECC83×1+KT66×2 ●コントロール: プレゼンス、ベース、ミドル、トレブル、ボリューム1、ボリューム2、スピード、インテンシティ、トレモロ ●入出力端子: インプット2×2 ●スピーカー: セレクション製(G12C) 12インチ×2 ●外形寸法: 815(幅)×625(高さ)×270(奥行き) mm ●重量: 32.5kg

Marshall 2014-2015  
**5wと小型キャビネットにも注目!**

今回、試奏したHWシリーズの他、2014年マーシャルがリリースしたのは、5wながらパワフルなDSL 5Cと、前号でも紹介したDSLのヘッドに最適なMX212というキャビネットだ。

「MXシリーズは、先に発売されたDSLシリーズにもマッチするキャビネットが伝統のMarshallサウンドを継承しながらも、コスト・パフォーマンスに大変優れたキャビネットです!」(メーカーズ・ヴォイス) というように、手頃な価格でマーシャルを手に入れられる最適なモデル!



▲DSL 5C(¥オープン)



▶MX212A(¥オープン)